

テーマ：『身近な自然を活用した ESD（持続可能な開発のための教育）』

国立 横浜国立大学教育人間 Tel. 045-742-2281 担当者：平林 隆行  
科学部附属横浜中学校



■**実践内容**： 中学校理科第二分野「大地の成り立ちと変化」において、博物館学芸員・活断層研究者らを講師として招き、城ヶ島の地層等を観察し、自分の課題を見つけ、解決していく活動を通して、自然を調べる基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自然の多様性、自然と人間生活の関連、プレート、地震の原因とエネルギー、火山・火山噴出物等についての理解を深める。また、研究者等の専門家から直接解説等を聞くことにより、科学への興味・関心を高め、科学の有用性の理解をすすめる。

■**実践成果**： 事後、対象生徒 130 人に、それぞれの項目について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」のいずれかで答える調査を実施した。「理科の学習は、自然や環境の保護のために必要だ。」という質問に対して「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した生徒が 94.6%となった。また「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、理科を勉強したい。」という質問に 83.3%の生徒の肯定的な回答を得るなど、科学への関心や科学の有用性への認識の高さを示す結果が見られた。

■**実践ポイント**： ①講師に博物館学芸員及び活断層研究者を招くことにより生徒の様々な疑問の解決へ効果的な助言を得られる。②映像資料に頼りがちな単元であるが、身近な自然に直接触れることにより自然を理解し、環境を保全しようとする関心・意欲が高まる。③自然から見いだした個々の課題をグループで解決する活動により、自分の考えを説明したり、他人と協力したりするスキルが向上し、思考力・判断力・表現力等の育成につながる。